

お菓子は 神様への捧げものだった



九里祭

「The お菓子」の展示 8/26・27

今年の九里祭の展示は、お菓子をいろんな角度から調べてみたいという案が選ばれました。いざ取り組む段になつてみると、菓子は、日本の和菓子だけではなく世界の洋菓子から名作に出てくるお菓子まで、とんでもなく広く大きいテーマであることに気づき愕然としました。そこで歴史はお菓子で代表的なチョコレート、キャラメル、金平糖にしぼりました。コスチュームは工夫しました。

三年 坂野 唯
発見がありました。

チョコレート・キャラメル・
金平糖・ドロップ等々を
調べる中で、沢山の

三年 坂野 唯
発見がありました。

あらためて味わってみた

金平糖



森永太一郎の生涯

お菓子のはじまりは神様への捧げ物だったと
いう事を知りました。昔、お菓子の最大の原
料である砂糖は、大変貴重な物だったよう
です。今でも先に伝えていました。



図書館だより

九里学園高等学校
図書委員会
印刷(株)川島印刷
TEL 21-5511(代)

がらエプロンを作りました。

経験でいいアド

バイスをいただ

きかなり助かり

ました。

このお菓子について調べて初めに知った事、

学んだ事がたくさんあります。

人々の思いが一

杯込められて現在の形になつたことを考えながらお菓子を

食べるとひと味ちがうかも知れません。

委員会では、金平糖を九里祭が終つてもしばらくの間、みんなで味わいました。

様へあげて感謝してから口に

する習慣がありますが、この

習慣とつながるのではないか

と思いました。
キャラメルを日本で最初に作つたのは森永太一郎です。彼はアメリカで一粒のアメとの出合いからクリスチヤンになります。そして、多くの失敗を重ねて事業に成功するまでの波乱に満ちた生涯は大変面白かったです。また、名作の中のお菓子では『火垂の墓』のサクマドロップが戦後二社に分かれた理由が分かりました。それから金平糖が京都や江戸よりも早く米沢で食べられていたそうです。これらは、展示することで分か

つたミニ知識です。
当日は、コスチュームを着て楽しむ事が出来たし、文化祭の展示は大成功だったとい

図書館だより

2006.11.17

(2)

成功したよ クラス 読書会 6/21

母の死で
命の輝きを
書きたかったのでは

リリー・フランキー著
3-4『東京タワー』

庄司
伊藤 智恵玲

一番怖いのは 無批判に信じる人たち

図書委員の読書会の本は、村上春樹の『沈黙』でした。無口な大沢がテストで一番になつたことから青木に目をつけられてしまい、青木の汚いやり方に我慢できなくなり殴ってしまいます。しかし殴られた青木は周りにいる人を武器に仕返しをして大沢を追いつめていく話です。

「大沢は本当に怖いのはどういう人だと言つて
一番の面白味だと思います。」(三年 矢野翔平)

5/24
図書委員会
読書会

「いますか」で出た意見は、
青木のような人間の話を無批判に信じてしまう人間と
言うものがでました。

読書会が成功した最大の理由は、作者が実体験した母の死を息子として淡淡とうけとめようとした本だからと思ひます。みんなが感動したと言つたのはオカンの遺書の部分でした。読んでいくと「死」に対する考え方があらわつています。

予想外に読んできてくれたので、スムーズに討論ができ、意見を発表してもらおうことができました。三年間で一番良い読書会になつたのではないかと思ひます。

最後ということで成功させたかったのが、予想外に読んできてくれたので、スムーズに討論ができ、意見を発表してもらおうことができました。三年間で一番良い読書会になつたのではないかと思ひます。

三年四組では、『東京タワー』をクラス読書会のテキストにしました。今回は三年生が、最後というところで成功させたかったのが、予想外に読んできてくれたので、スムーズに討論ができ、意見を発表してもらおうことができました。三年間で一番良い読書会になつたのではないかと思ひます。

八年七日、米工を会場に、九里、米商、米工の三校が集まり合同の読書会が行われました。例年七月に行われていたものが今年は進路関係の補講等があり、三校とも三年生が忙しく、夏休みの中間になつてしまいました。そのため、この本を選んで本当に良かったです。

わっていくと思います。母の死を書くことで、むしろこの本では生命の輝きというものを実感することができると思います。みんなとてもすがすがしい気持ちになりました。この本を選んで本当に良かったです。

本当はむずかしい 流されない生き方

フランク・パブロフ
『茶色の朝』 三校合同読書会 8/7 於 米沢工業高校

この本は人間の深い心理描写が書いてあるので、面白いと思つていました。そして、ずっと大沢寄りの感想を持つっていました。ところが読書会で同じ班だった人が「みんな青木なんじやないか」と言つたとき、自分とはちがう面白い読み方だと思いました。

「茶色の朝」で言つてることに自分達が当たつることを全員が改めて気づいたようでした。

本の最後のページにはヒットラーを例にした解説がありました。ヒットラーは民主的に選ばれて、結局は間違つた方向に人々を導いてしまったワケだがこれで正しいのかという市民一人一人の気づきが大切で、その都度意志の表明が大切であり、流されない生き方こそ本当はむずかしいことをこの本はいいたかったのだと思いました。

(二年 伊藤大二)

図書館だより

(3)

2006.11.17



図書委員研修旅行 7/14・15

新潟 敬和学園高校と交流

3年 砂川 尚人

私の好きな

1-8 相田 拓樹



最初に私達を迎えてくれたのは、チャペルでのパイプオルガンによる歓迎の讃美歌でした。讃美歌を歌つた後、生徒の皆さんとペアになって学校を案内してもらいました。この時に私達の学校の周りは山しか見えないから、「海が見えるのはすごい」と言つたら、「山が見えるほうがすごい」と言われ、自然環境の違いを感じ、面白かったです。

敬和学園の図書室は、キリスト教に関する本が多く、貸し出し冊数も我校の三倍あります。学校の方針でこれほど内容が変わるかと驚きました。

その他、今回の研修旅行では、米沢藩にお金を貸したといいう、豪商渡邊邸の見学、小泉八雲と関わりがあつたとう会津八一の記念館を観てきました。またマリンピア日本海でイルカのショーを、齊藤清美術館では、会津の自然を表現した美しい版画を鑑賞してきました。私にとっては三年の一一番忙しい中でしたがいい時間だつたと思っています。

今年度の図書委員研修旅行は新潟の敬和学園高等学校と交流してきました。敬和学園は、キリスト教に基づいている高校です。カリキュラムの中に、聖書の時間と労作と呼ばれる時間があり、煙で作物などを育てているということでした。

また、学校の敷地内に四つの寮があり、約百八十人ほどのが生活しているそうです。

最初に私達を迎えてくれたのは、チャペルでのパイプオルガンによる歓迎の讃美歌でした。この時に私達の学校の周りは山しか見えないから、「海が見えるのはすごい」と言つたら、「山が見えるほうがすごい」とと言われ、自然環境の違いを感じ、面白かったです。

敬和学園の図書室は、キリスト教に関する本が多く、貸し出し冊数も我校の三倍あります。学校の方針でこれほど内容が変わるかと驚きました。

その他、今回の研修旅行では、米沢藩にお金を貸したといいう、豪商渡邊邸の見学、小泉八雲と関わりがあつたとう会津八一の記念館を観てきました。またマリンピア日本海でイルカのショーを、齊藤清美術館では、会津の自然を表現した美しい版画を鑑賞してきました。私にとっては三年の一一番忙しい中でしたがいい時間だつたと思っています。

滝 本 龍 彦 著

陽 介

『ネガティブハッピー・チェーンソーエッヂ』の



『ネガティブハッピー・チェーンソー・エッヂ』の主人公・陽介は高校二年生。深夜のスーパーで「高級霜降り和牛」を万引きした帰り道、公園で少女とチェーンソーを持つ男が闘っているのを発見する。少女の名前は絵理、毎晩不死身の怪物「チエーンソー男」と闘い続けているのだと言う。刺激がほしい、女の子の前で強い自分を見せた

運転手をするほなかつた。だが闘いに参加しているうちに、絵理の真実、彼女と男が闘い続ける理由を知る。そしてクライマックスで、陽介はバイクを吹かしチエーンソー男めがけて飛び込んだ。これが驚くほどカッコ良かった。僕たちの日常には、チエーンソー男のようなわかりやすい敵はない。だけど確かに何者かわからない敵はいる。それは悪だとか善だとか、そんな単純なものじゃない。僕たちの世代なら、誰もが、その形のないやらしい敵と闘っているのだと思う。ひょっとしたら、チエーンソー男を生み出したのは、僕らの心そのものなのかも知れない。そして、そんな怪物とまともに向かい合つた陽介は、まさに

卷き込まれていった。男はメチャクチャ強く、絵理も女子高生とは思えないほどメチャクチャ強かつた。陽介は戦闘で役に立つことはほとんどなく、専ら彼女専属の

僕たちのヒーローだ。

図書館だより

2006.11.17

(4)

二年間で、幸せな失敗をたくさんした。図書館でアルバイトをしていました。なぜ図書館でアルバイトをしようと思ったか。時給が程々によかった、立川市立中央図書館でアルバイトしていました。なぜ図書館でアルバイトをするか。自分に合った速度で読むことができる。学生のとき、立川市立中央図書館でアルバイトしていました。なぜ図書館でアルバイトをしようと思ったか。時給が私には本と本のある空間が好きである。本はマイペースな私にぴったり。自分で合つた速度で読むことができる。

本を読むことは自分を読むことだ

—地区図書委員研修会—

10/31

於 高畠高等学校



十月三十一日に高畠高校で置賜地区の図書委員研修会が行われました。私はが読書会で読んだ村上春樹の『沈黙』という本をもとに、米沢女子短大の馬場重行先生の講演がありました。ここでは、「小説を読むこと」は、自分が読むことでもある、どんな読み方や考え方でも、これが正しい読み方だというものが一番の理由だった。私はアルバイトをしていた

なことが一番の理由だった。二年間で、幸せな失敗をたくさんした。図書館でアルバイトをしていました。なぜ図書館でアルバイトをするか。自分に合つた速度で読むことができる。学生のとき、立川市立中央図書館でアルバイトしていました。なぜ図書館でアルバイトをしようと思ったか。時給が私には本と本のある空間が好きである。本はマイペースな私にぴったり。自分で合つた速度で読むことができる。

私は本と本のある空間が好きである。本はマイペースな私にぴったり。自分で合つた速度で読むことができる。学生のとき、立川市立中央図書館でアルバイトしていました。なぜ図書館でアルバイトをするか。自分に合つた速度で読むことができる。

読書の楽しみ



幸せな失敗

かんお のりこ 先生

さんした。図書館と本屋の違いは、本を読むためにお金を払うかどうか。図書館の本はおもしろくなかったとしても返却すればそれまで。CDのジャケ買いならぬ、本のジャケ借りもし放題。表紙を見て良さそうと思ったらたくさんあつたけれど、それ以上に自分の好みを知ることができたのは大きな収穫だった。

九里にもすばらしい図書館がある。生徒の皆さんにも、幸せな失敗を経験してほしいと思う。読書は旅のようなもの。本の世界でいろんなことを感じてほし

い。十代の今しか持てない、期間限定の感情はきっとある。二十代では感じるところが違うのだ。その違いを倫しめるのは、今本を読んでいる人の特権である。

名著の伝記 <その7>

J. D. サリンジャー 著

成熟することの拒否

『ライ麦畑』つかまえて

The Catcher in the Rye
J.D. Salinger
キャッチャー・イン・ザ・ライ
J.D. サリンジャー
村上春樹訳

この小説は、パンクだといつた人がいる。主人公ホールデンの社会にむけての反抗がめいっぱい書かれていて、その揺れ動く魂が痛々しく読書にせまつてくるからだ。高校三年のホールデンは、生活の乱れから単位を落とし退学になる。いわゆる不良少年の彼には、大人社会に半歩は家を出でたりつく。しかし、親と顔をあわせないままその家を出で、先生の家に駆け込み、学校にもどることを勧められるのだがその先生も彼にはインチキに見えてしまうのだ。妹が家出してついてくるのを彼は思ひとどめらせるのだが、これから先のことはホールデン自身も何もわからないのだ。成熟することを拒否してゆれる魂に何かのメッセージが込められている。

編集後記

今回編集してみて、よくこの大きな行事をこなしてきたなーと思います。

第二面の読書会の特集ではなるべく本の内容を中心に書いてもらいました。

読んでみたい本があればどうぞ図書館の本を御利用下さい。

(3年 坂野)

(二年 江口 真美)